

2024観光学科カリキュラムマップ

- DP1 【知識・理解】 観光と社会の双方について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 【教養・異文化理解】 グローバルな視点から、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、適切に理解して行動することができる。
- DP3 【汎用的技能・マネジメント】 国内外でグローバル化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、プロジェクトのマネジメントについて理解し活用することができる。
- DP4 【コミュニケーション・共感】 グループワークに必要なコミュニケーション能力を身に付け、相手の立場に立って考え、共感を引き出すことができる。
- DP5 【倫理観・連携・協働】 社会人として必要な倫理性を身に付け、多様な価値観を認める寛容さと他者理解の上に立つ共感力、豊かな表現力を持って、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP6 【主体性・課題発見・課題解決】 現場での活動を通して身に付けた「やり抜く力」を活かし、主体的に課題を発見し、解決に向けて行動することができる。
- DP7 【社会性・創造性】 生涯にわたって学習し自己研鑽を重ねる意欲のもと、社会が求める知識・技能を持続的に高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

系列	共通基盤	授業科目	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	マッチング											
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	SDG's 該当項目				
全 学 部 共 通 基 盤 科 目 群	大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	1	選択 (推奨)		本授業は大学4年間をいかに有意義に過ごすかについて考える。円滑な大学生活を送るための学習支援環境や教育プログラムについての理解を深めるとともに、授業中のマナー、情報交換の際のルール、大学生として相応しい振る舞いなどについて学ぶ。加えて、情報収集の基礎や観光の関連資料について理解を示し、今後の学部での学びをサポートする。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	Fundamentals of English I	2	選択 (推奨)		This English multi skills course is designed to build upon students' basic English knowledge at a linguistic and cultural level, and to develop their communicative ability.		◎										
	大学での学びの基礎を固める	Oral Fluency I	2	選択 (推奨)		This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies.		◎										
	大学での学びの基礎を固める	中国語I	2	選択 (推奨)		初めて中国語を習う学生を対象とする。中国語の発音 (ピンイン) と表記などを徹底的に学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	中国語II	2	選択 (推奨)		中国語Iあるいは中国語IAを履修した学生を対象とする。基礎的な中国語の文法を学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。また、日常生活に密着するコミュニケーション能力を養うことを図る。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	韓国語I	2	選択 (推奨)		韓国語の文字ハングルを正しく読み、書くことができる。日常会話でよく使う文法を理解することができる。身近な話題 (名前、年齢、誕生日、家族構成、好きな食べ物など) について簡単な会話と作文ができる。スマートフォンやパソコンでハングルを入力し、連絡や情報検索などができる。ハングル能力検定5級以上の合格を目標とする。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	韓国語II	2	選択 (推奨)		韓国語Iで学んだ内容を復習し、理解を深める。より複雑な表現と文法を理解することができる。学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。ハングル能力検定5級以上の合格を目標とする。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	ハンガリー語I	2	選択 (推奨)		初めてハンガリー語を勉強する入門クラス。基本文法と基本語彙のほか、日常会話を学習する。教科書の各章などを紹介する授業の専用YOUTUBEチャンネルなども用いて学習効果を高めてハンガリー語を勉強する入門クラス。翻訳の練習として英語からハンガリー語、ハンガリー語から英語への翻訳なども学ぶ。ハンガリー研修やハンガリー留学プログラムの準備コース		◎										
	大学での学びの基礎を固める	ハンガリー語II	2	選択 (推奨)		ハンガリー語を勉強する入門クラス。翻訳の練習として英語からハンガリー語、ハンガリー語から英語への翻訳なども学ぶ。ハンガリー研修やハンガリー留学プログラムの準備コース		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語I	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語II	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	統合日本語I	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	統合日本語II	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語アカデミック・ライティング	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	社会と文化の日本語A	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	社会と文化の日本語B	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	現象世界をつかむ	データサイエンスI	2	必修		◎	本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル)」の内容に準拠し、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象とする。そのために導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展を学ぶ。基礎では、教員と一緒にExcelによるデータ演習を行う。心得では、今後データを扱っていく場合に気をつけるべき事項を大学のPCを使用し、Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を学ぶ。本講義では教科書を使い、教員からアプリケーションの機能を説明した後、学習者が自らパソコンを操作し、操作上の不明点を教員がサポートする形で進めてゆく。		◎									
	現象世界をつかむ	デジタルアプリA	2	選択		◎	大学のPCを使用し、Word、Excel、PowerPointの具体的な利用シーンを想定してレポートやデータ分析、プレゼンテーション等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組み。本講義では教科書を使い、教員からアプリケーションの機能や文書・資料の作り方を説明した後、学習者が自らパソコンを操作し作業を行う。		◎									
	現象世界をつかむ	デジタルアプリB	2	選択		◎	本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源 (芸術、健康、自然など) や、観光と社会の関わり (ビジネス、まちづくり、メディア) についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。		◎	◎								
	現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2	必修	◎	◎	ヘルストゥリズム (狭義)、セラピーツリズム、メディカルツリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と関する先進事例について学ぶ。様々な事例を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意するとともに、広義のヘルストゥリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、ニューツリズム発展の観点から、ヘルストゥリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ。		◎	◎								
	現代社会の課題に挑戦する	ヘルストゥリズム	2	選択 (推奨)		◎	ヘルストゥリズム (狭義)、セラピーツリズム、メディカルツリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と関する先進事例について学ぶ。様々な事例を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意するとともに、広義のヘルストゥリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、ニューツリズム発展の観点から、ヘルストゥリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ。		◎	◎								
	現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトA	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトB	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトC	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトD	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトE	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトF	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトG	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトH	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトI	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトJ	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々や協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎	◎									
歴史をひもとく	人類とものづくり	2	選択 (推奨)		◎	いわゆる【衣】【食】【住】のほかに、【埋葬】【移動】【想像-創造】という大きな主題を切り口として取り上げる。そして、それぞれの中で設定した個別具体的な事象に関する理解を通して、人類の「これまで」と「これから」について考える材料を提供する。各回において、考古学や歴史学に基づく具体的な情報をもとに、自らが生きていく時代について考える要点を示すこととする。		◎										
歴史をひもとく	房総の文化と歴史	2	選択 (推奨)	◎	◎	千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿って学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取り組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。地球の歴史、構造、気候、自然環境及び地形から、そこに住む人々の生活営みから、地理学を学ぶ。つまり、人間活動以外の部分である自然地理と人間が作り上げてきた或いは深く関わってきた環境、両面から地理学を学習する内容で授業を展開する		◎	◎									
世界を創造する	地理学A	2	選択 (推奨)			「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義では、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGs」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合いつつ、単なる観光資源としてだけでなく、その深い本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツリズムの主要3部門のうち、主に「航空業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定2級程度の力を習得できる。		◎	◎	◎								
世界を創造する	世界遺産のいま	2	選択 (推奨)			「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義では、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGs」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合いつつ、単なる観光資源としてだけでなく、その深い本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツリズムの主要3部門のうち、主に「航空業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定2級程度の力を習得できる。		◎	◎	◎								
	English Skills for International Tourism	2	選択			本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツリズムの主要3部門のうち、主に「航空業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定2級程度の力を習得できる。		◎	◎	◎								
	Reading and Writing for International Tourism	2	選択			主として英語のReadingとWritingのスキル向上を目標とする上級レベルのクラスである。TOEIC等の資格試験におけるReadingセクション及びWritingセクションを重点的に学習する。Reading及びWritingスキルは、グローバル社会で仕事する上でなくてはならない技能でもあることから、講義ではReadingとWritingに重点を置き、読解力・読解力のアップを目指す。		◎	◎	◎								

専 門 科 目 群 II	観光メディア制作基礎A	2	選択	○	本講義では、観光メディアの観点から地域社会の情報を発信するための基礎スキルを身につけることが目標である。具体的には、観光メディアの制作に必要なAdobe Illustratorなどのアプリを用いて、情報の編集や画像の利用における基礎的なスキルを修得し、実践的かつ理論的な側面から、潜在的な観光客に加え、地域に在住する人々に向けた地域情報の共有をテーマとしたフリーペーパーの制作を実践する。						○	○	◎	○	9	
	観光メディア制作基礎B	2	選択	○	本講義は、基本的な動画撮影と動画編集の技術を身につけることが目標である。現在では、地域社会においても多様なメディアを活用できる技術を修得した人材が求められている。本講義では、様々なメディアの撮影機材（ドローン、GoPro,360度カメラなど）を利用した映像撮影を実践する。また、Adobe Premiere Proを利用して、視聴者や視聴する場面を想定した動画編集を行う。						○	○	◎	○	9	
	観光プロジェクトA	2	選択	○	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。							◎	○	○	○	11
	観光プロジェクトB	2	選択	○	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。							◎	○	○	○	11
	観光メディア制作応用A	2	選択		本講義は、観光メディア制作基礎Aの応用編として、新しい観光の価値を自ら作り出すスキルの修得が目標である。特に、観光まちづくりに寄与するための地域の情報や、観光ビジネスに寄与できる新しいビジネスを主眼とした情報を掲載したフリーペーパーを制作する。地域の中で行うにあたっての会場借用や会場設営などにも取り組み、自分たちの中で工夫して実施できるようにマネジメントの方法などを身につける。							○	○	◎	○	9
	観光メディア制作応用B	2	選択		本講義は、観光メディア制作基礎Bの応用編として、既に身につけている高度な動画撮影技術と動画編集技術を活用し、観光地をセルフブランディングする方法を身につけることが目標である。そこで講義では、グループに分かれて地域へ取材を行い、ドキュメンタリー映像などを作成する。映像による地域ブランディングの方法を実践するとともに、チームマネジメントの方法を身につける。							○	○	◎	○	9
	観光ゼミナールA	1	選択		観光ゼミナール（ゼミ）では、学生は自らの希望する研究テーマのゼミを選択することができる（ただし人数制限があるため、必ずしも希望するゼミに所属することはできない）。ゼミでは各テーマに合わせて、学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールA」では、担当教員とともに研究の方向性やプロジェクトの取り組みを検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。							○	○	◎	○	
	観光ゼミナールB	1	選択		観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールB」は、「観光ゼミナールA」で履修選択したゼミを継続して履修する。「観光ゼミナールB」では、「観光ゼミナールA」で検討した研究の方向性やプロジェクトに取り組み、ゼミでの研究活動を進めていく。また、併せて卒業論文を執筆するかを担当教員とともに検討する。							○	○	◎	○	
	観光ゼミナールC	1	選択		観光ゼミナールでは、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールC」では、担当教員とともに研究やプロジェクトに組み込むと同時に、卒業論文や卒業制作について検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。卒業論文を執筆する学生は「卒業論文」を履修する。							○	○	◎	○	
	観光ゼミナールD	1	必修		観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールD」は必修科目であるので、必ず履修しなくてはならない。「観光ゼミナールD」では、これまでのゼミ研究活動の成果として、卒業論文あるいは卒業制作を課題として執筆・制作し、提出する。なお、卒業論文を執筆する学生は、卒業論文・卒業制作を提出する必要はない。							○	○	◎	○	
卒業論文	4	選択		「卒業論文」は、ゼミでの研究活動の成果として執筆する。卒業論文を執筆するには、ゼミ担当教員の指導のもとに研究内容を検討し、「卒業論文規定」に基づいて執筆・提出する。そのため、「観光ゼミナールA」から継続的にゼミを履修することで研究活動を深めていくことが重要となる。卒業論文に関する諸規定は別途「卒業論文規定」に示している。							○	○	◎	○		

SDG's 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」